

講義名	対)財政学			
担当教員	三原 裕子			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限		授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考
主題と概要				
税金は、我々が日常生活を送る上で非常に密接なものです。しかし、税金は出来れば払いたくなく、その負担を重く感じる事があります。一方で、税金のおかげで我々は様々な公共財やサービスを受受でき、我々の生活を便利なものにしてきています。本講義では、国の活動のうち支出に着目し、それが抱える課題や解決策などについて理解することを目的とします。				
到達目標				
(1)経済学の基礎的な知識を身につけ、理論的に物事を判断できる力を養うことができる。 (2)財政の仕組みについて理解し、現在の日本の財政の諸問題について整理できるようになる。 (3)財政の役割を理解することで、財政と我々の税金かどのように密接に関っているかについて認識できるようになる。 (4)新聞記事を読み、自分自身で政策の効果を評価するための知識を身に付けることができる。 *新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、オンデマンドへの移動はせず、その期間のみ課題学修などによって対応します。				
提出課題				
課題については講義中およびRyuka Portalの講義連絡にて適宜指示をします。				
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック				
小テストや課題の解説は次の講義始めに行います。				
評価の基準				
課題（小テストを含む）50%、学期末レポート50%により評価します。				
履修にあたっての注意・助言他				
受講生の理解度に応じて、授業の内容・進め具合を変更する場合があります。 授業では一次函数、方程式など必要最低限の数学を多用します。 この科目の到達目標の実現のために、毎回出席し、課題を提出してください。 Ryuka Portalの講義連絡等をしっかりと確認してください。 【対面のみ】 講義中の録音／撮影は原則禁止します。ただし、やむを得ない事情等により、事前に申し出た場合に限りほかの受講生の妨げにならない範囲で許可します。				

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

レジュメ等はRyuka Portalの講義連絡を用いて配信しますので、各自ダウンロードなどして準備をして下さい。
主な参考文献
・大庭正一「コア・テキスト 財政学」新世社、2002
・加藤久和「人口経済学」日経文庫(1160)、2007
その他参考文献については授業中に適宜紹介します。

授業計画

1.財政とは何か
2.家計分配機能
3.所得再分配機能
4.経済安定化機能
5.マクロ財政政策
6.公共財(1) 公共財の定義
7.公共財(2) リンダール均衡
8.我々の生活と社会保障制度
9.日本の育児支援制度
10.待機児童問題を経済学の観点から考察する(1)
11.待機児童問題を経済学の観点から考察する(2)
12.日本の年金制度とその問題点
13.事前積立方式(1)
14.事前積立方式(2)
15.まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・各回の授業内容について、資料をまとめるなど復習を90分程度で行ってください（特に重要な箇所は授業中に指示します）。
・次回の授業内容についての予習を配布資料を用いて60分程度で行ってください。
・授業中に課された課題等について90分程度で行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

【経済学部】
経済学と財政学の基礎的な知識の習得（目標(1)、(2)）により、人間、社会、自然に関する学問的成果の基礎を身につけることができます。これを通じて、現代社会の諸問題を解決、課題の解決の提案（目標(3)、(4)）が出来るようになり、共通DPに貢献できる。
【商学部】
社会と財政との関りを理解すること（目標 (2)、(3)、(4)）により、各業界が経済、財政とどのように関わっているかを理解することが出来る。これを通じて各業界の動向や問題点を発見することにつながり、共通DPに貢献できる。
【人間社会学部】
社会と財政学の基礎的な知識の習得（目標(2)）により、人間、社会、自然に関する学問的成果の基礎を身につけることができます。これを通じて、社会の仕組みや働き、人間心理などを理解することにより共通DPに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

アンケート、小テスト、課題などの回収をクリックカー（Respon）にて行います。

実務経験の有無及び活用

備考

【対面授業を履修する場合】
＊新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、オンデマンドへの移動はせず、その期間のみ課題学修などによって対応します。